たかさき市民討議会VOICE2015

実施報告書

平成27年12月

たかさき市民討議会VOICE2015実行委員会

はじめに

公益社団法人高崎青年会議所と高崎市との共催による、「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５」が、関係各位のご協力と、ご参加いただきました皆様の積極的な議論によって、本年も貴重な機会となりましたことに対し、心より御礼申し上げます。

私たちの故郷たかさきは、「まちづくり」に対して、市民の関心および、まちづくりへの参画意識がとても高い地域であると考えます。中心市街地における各種事業の開催をはじめ、市内各所で開催される様々な事業には、その事業構築に際して、企画者だけではなく、周辺地域の人々や学生、各種団体等が積極的に参加しております。さらに、「地域活性化」という領域をも意識した様々な取り組みが自主的に行われており、まさに、「積極性のある」地域と言えるのではないでしょうか。

「行政任せにしないまちづくり」と掲げられることも多くありますが、行政だからこそ担える役割、市民、住民として果たすべき役割、企業や各種団体等のそれぞれの役割において、それぞれが自らの専門性を発揮し、補完し合いながら地域の課題に取り組む姿勢。そんな協業こそが、未来のたかさきの発展に必要不可欠な要素であると考えます。

いま、高崎市は大きな変革期にあります。各種インフラ整備に始まり、ハードだけではなく、ソフトの面からも人が集まるまちへと検討が重ねられ、より安全安心に、よりエキサイティングなまちへと、変貌しつつあります。「どのような未来に向かいたいのか。」我々は、未来のたかさきに何を求めようとしているのか。今一度、その到達点を意識し、目標を共有する必要があるのではないでしょうか。

本年は、地域的視点の範囲を中心市街地から少しずらし、烏川河川敷を主とする「リバーサイドの活用」をまちの活性化につなげることを最終目的に、議論を展開させていただきました。利便性の高い都市環境と、豊かな自然環境が数キロ圏内に共存するコンパクトなまちの特性は、その活用次第で大きな魅力へと発展することでしょう。

そんな「未来のたかさきの姿」を共に描きながら、議論を進めることができたことに対し、参加いただきました皆様をはじめとする、ご協力いただきました皆様に対し、改めて、感謝を申し上げます。

今後とも、たかさき市民討議会へのご理解とご支援を賜りますよう、何卒、よろしくお願い申し上げます。

平成２７年１２月吉日

たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会

実行委員長　串田　洋介

実施報告書目次

はじめに

第１章　たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５について

　１－１　市民討議会とは
　１－２　実施目的
　１－３　実施概要
　１－４　開催までの流れ
　１－５　開催当日の流れ

第２章　討議の結果とまとめ

　討議１　　『あなたは高崎のまちで何をする？』
　討議２　　『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』
　討議３　　『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、
　　どんなものにしたいですか？』
　討議４　　『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。
　　そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう』
　討議５　　『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
　　～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

第３章　当日アンケート結果

第４章　たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５の検証と評価

　４－１　検証と評価
　４－２　中間報告会

おわりに

参考資料

第１章　たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５について

１－１　市民討議会とは

市民討議会とは、ドイツの学者ペーター・Ｃ・ディーネル博士が１９７０年代に考案した市民参加の手法「プラーヌンクスツェレ」を参考に、日本で改良された新しい市民参加の手法です。

ディーネル博士はプラーヌンクスツェレの定義を「無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである。」としています。

無作為抽出という「きっかけ」づくりをすることで、行政に対して普段意見を言う機会が少ない市民が、自分の考えや意見を述べることができ、市民の知恵や経験、アイディア、感覚が行政の施策に反映される新しい民主主義のかたちとして位置付けられています。

市民の立場から言えば、行政に対し積極的な参加意識を持たない市民が、地域や社会の問題を話し合うことで、自分たちは何をすべきかを自ら考え、行動の意識付けをする「自立した市民」の形成につながるものです。

１－２　実施目的

高崎市では、高崎市市民参加推進計画（平成１８年度策定）に基づき、市民の声を施策に生かすため、公募による市民会議や、パブリックコメントなど積極的に取り組んでいます。

しかし、これまでの市民参加の手法では、日頃から積極的に市政に参加している方からの意見が多く、市政に参加したことがない方からの意見は決して多いとはいえません。

本当の意味での市民参加とは、声を上げない多数の市民（サイレントマジョリティ）までをも取り込んだものでなくてはなりません。

そのため、これまでの市民参加の手法では汲み取ることのできなかった「声なき声」を聴くため、市民討議会という新たな手法を用い、真の市民参加を推進していくことが開催の目的であり、さらに市民討議会に参加した方々が、今後も市政に深い関心を持ち、声を上げていくことで、市民意識の醸成が図られ、住民自治による協働のまちづくりを推進する第一歩に繋がると考えております。

高崎市における市民討議会は、平成２１年よりこれまで計６回、開催されております。開催を通じて、上記目的に対しこの手法が有用であると考えられ、本年も継続し開催することにしました。

今年のたかさき市民討議会は、次の内容で行いました。

（１）高崎にお住まいの市民の中から１２００名を無作為抽出し参加案内を送付し、参加者を募った。
（２）開催日を９月１３日(日)とし、テーマごとに計５コマに分けた。
（３）『高崎中心市街地の交流人口の創出』をメインテーマとした。
（４）討議対象エリアに対する現状把握と今後重要と思われる施策について５つの小テーマを設定した。
（５）参加者は１テーブル５人程度に分かれ、情報提供を受けた上で、グループ内で意見を出し合い合意形成のうえ発表、さらに全体の意見から最も共感を得た意見に投票し、市民討議会全体としての合意形成を図った。

１－３　実施概要

今回、たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５の開催にあたっては、市民参加と協働のまちづくりをさらに進めるため、公益社団法人高崎青年会議所と高崎市とでパートナーシップ協定を締結し、共催で取り組みました。

（１）開 催 日　平成２７年９月１３日(日)
（２）開催場所　ｃａｆｅ　あすなろ
（３）主　　催　たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会
（４）テ ー マ　『家族と楽しむ高崎プロジェクト
　　～きっかけは子どもから！笑顔あふれるまちづくり～』
（５）参 加 者　３２名
　　※参加申し込み数　４１名（事前欠席連絡数　７名）

１－４　開催までの流れ

（１）テーマの選定

今年は中心市街地の活性化、特に「交流人口の創出」を目的とし、「子ども・家族」をキーワードにメインテーマを選定しました。

近年予定されている高崎市の都市開発、取り分け建設予定の各施設について考えると非常に大規模なものであり、その影響は市街地エリアにも少なからぬ影響を与えると考えます。北陸新幹線の延伸や高崎・玉村スマートＩＣ等の交通インフラの整備は、高崎駅を中心とした市街地エリアへのアクセスの好材料として、賑わい創出の期待が寄せられているところでもあります。しかし、中心市街地の空き店舗の増加等に代表される衰退の度合いは未だ改善せず、現実的な課題として私たちの眼前にあります。

そのような状況を鑑み、高崎の市街地エリアに人を呼び込むためにはどうすればいいのか？というシンプルな問いから、高崎を「子ども」が集まるまちにするという目的を設定しました。子どもが集まるまちには大人も集まり、賑わいの創出に繋がります。今回の討議会では、「子ども」を切り口にいかにして高崎の市街地に人々を呼び込むかを目的に、「家族と楽しむ高崎」というテーマで討議会を設定いたしました。

メインテーマ　『家族と楽しむ高崎プロジェクト
～きっかけは子どもから！笑顔あふれるまちづくり～』

テーマ１　『あなたは高崎のまちで何をする？』
テーマ２　『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』
テーマ３　『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』
テーマ４　『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう』
テーマ５　『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

（２）参加者の抽出・決定

住民基本台帳から１８歳から６９歳までの市民１２００名を無作為に抽出し、市民討議会の参加依頼書及びチラシを送付しました。

その中から参加に承諾していただいた市民４１名を参加者として決定し、参加決定通知書を送付いたしました。その後、開催当日までに数人から欠席の連絡があり、参加者は３４名となりました。

１－５　開催当日の流れ

討議は、５回実施しました。

参加者全員が個人の意見を発表しやすい環境を作るため、討議中は参加者同士があだ　名で呼び合い、５名前後のグループで、グループごとに討議を行いました。また、グループ内で意見の偏りが発生することを防ぐため、各討議終了後にグループメンバーを入れ替え、メンバー決めはランダムになるよう「くじ引き」で決定しました。

各グループではあらかじめくじ引きで進行役、書記、発表者の役割を決め討議を開始します。

討議の進め方は原則として、情報提供 ⇒ 自己紹介 ⇒ ブレーンストーミング ⇒ グループ討議（意見のまとめ）⇒ 全体発表 ⇒ 投票 の流れで実施しました。ただし、討議１、２に関しては各個人の意見抽出と共有を目的としたため、投票は行いませんでした。

討議１　『あなたは高崎のまちで何をする？』
討議２　『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』
討議３　『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』
討議４　『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう』
討議５　『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

（１）情報提供

テーマに関する基礎知識や現在の取り組みなどを参加者にレクチャーしました。情報提供者は討議の方向性に影響を与えないように公平な情報を提供するよう心掛けました。

（２）自己紹介

討議の前に、テーブルごとにメンバー同士の簡単な自己紹介を行いました。

（３）ブレーンストーミング

テーマについて思いついたアイディアを順番に発言していきます。発言した内容は書記役が付箋に書き出します。

〔ブレーンストーミングに際して留意していただいたこと〕

① 難しく考えず、思いついたアイディアをたくさん出すこと。
② 実現可能か考えず、自由に発想すること。
③ 他人の意見を批判しないこと。
④ 他人の意見から連想したり、他人の意見に付け加えて意見を出してもよいこと。

（４）グループ討議（合意形成）

討議シートに貼られた付箋をもとに、それぞれの意見についてグループ内で討議をし、似通った意見や共通の意見をまとめていきます。また、新しい意見は付箋カードに書き加えます。ある程度の意見がまとまったら特に採用したい意見を討議シートの意見のまとめ欄に記入しました。

〔グループ討議に際して留意していただいた事項〕

① 他人の意見を批判することが目的ではなく、討議素材を付け加えることが目的であること。

② 出た意見の意味や発言の背景をはっきりさせることも目的であること。

③ 人の意見を聞いて自分の意見を変えても構わないこと。

（５）発表

あらかじめ決められた発表者がグループ内の意見を取りまとめ発表します。実際に討議に使用した討議シートを前方に貼りだし、参加者全員にわかるように合意形成の流れと、その結果導き出された特に採用したい意見を発表します。

（６）投票

全体発表が終了したら各グループの討議シートを会場内に掲示し各個人の投票に移ります。参加者は１人３票を持ち、発表された全意見の中から特に共感を得た３件に投票しました。投票はグループ毎に順番に行いました。

第２章　討議の結果とまとめ

「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５」では、Ａ～Ｇグループ（７グループ）に分かれ、各テーマに関して計５回の討議を行いました。討議１では高崎のまち（対象エリア）についての印象を出してもらうことで現状を認識し、討議２では「子どもが集まるまち」について考え、その傾向について共有、討議３で「もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があったら」という仮説のもと「子ども」を意識した集客施設を考え、高崎のまちが子どもで賑わう姿を思い描いてもらいました。そして討議４では、「子ども」だけではなく「大人」も意識したまちの仕掛けについて、討議５では現在開発計画も進んでいる烏川河川敷を討議エリアに設定し、「子ども」、「大人」はもちろん、「家族」が賑わい楽しめる空間になるための具体的なアイディアを出し合い、今後取り組むべき具体的な施策について討議を進めました。

<討議会スケジュール>

９月１３日（日）

8:30	開場
9:00	開始 オリエンテーション
9:40	討議１（４０分） 『あなたは高崎のまちで何をする？』
10:20	休憩
10:30	討議２（６０分） 『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』
11:30	休憩
11:40	討議３（６５分） 『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、 どんなものにしたいですか？』
12:45	投票
12:55	休憩（昼食）
13:45	討議４（８０分） 『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。 そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』
15:05	投票
15:10	休憩
15:20	討議５（８５分） 『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！ ～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』
16:45	投票
16:50	まとめ・総括
17:00	終了

【討議１】『あなたは高崎のまちで何をする？』

＜討議の目的＞

討議参加者に現在の高崎のまち（討議対象エリア）について話し合ってもらい、現状におけるまちの印象や目的について確認します。

＜情報提供の内容＞

討議１に関しては現状把握が目的のため、情報提供はしておりません。

＜討議結果の考察＞

討議１は、現在の高崎のまちに対する印象を把握することが目的となりますので、各グループの発表のみを行い投票は行いませんでした。

全体的に見受けられたのは、高崎のまちに訪れる意見として、「生活」面での目的が大半を占めていたことです。仕事や食事で訪れる、公共の交通機関を利用するために訪れる、ショッピングに訪れる等、生活の中心的な部分を占める意見がほとんどでした。

またそれだけに、各利用目的に対して希望する意見等も見受けられました。「託児所」、「文化施設」、「交通手段」など、普段利用する頻度の高いものや利便性の高いものに対しての意見は、現状の高崎のまちに対する「不満」や「物足りなさ」を表しているのかもしれません。

ただ興味深い点として、対象エリアに対する無関心な意見が少なかったことがあげられます。裏を返せば、高崎のまちに対しての「興味」や「期待」が大きいということが言えると思います。

※意見詳細は、ワークシートをご参照ください。

＜討議結果のまとめ＞

討議１　『あなたは高崎のまちで何をする？』

分類	意見のまとめ	班
飲食・買い物・娯楽	買い物や生活用件でまちに行く	A
	仕事をする、勉強をする	G
	ショッピングをしながら散歩、（孫たちと）遊べて仲間づくり	D
	映画・趣味等の遊びをして夕方呑みに行く	D
	食事（ランチなど）に来る	E
	生活、暮らし、衣食住を楽しむ	G
	休日を楽しむ（趣味、子育て、買い物、スポーツ、芸術）	G
子育て	子育てのインフラ→中心市街地	C
	託児所（買い物中など）	B
	まち中に子供を預け遊ばせてもらえる場所を作る（ボランティアで託児所や話し相手）	F
文化・芸術	文化施設の利用（美術館、図書館、公民館など）	E
	イベント（もてなし広場、祭り）	E
	まち中に気軽に入れるカフェを作り、アマチュアの美術・工芸品を飾り販売	F
自然・環境	まちにレジャースポットがない	A
	イオンをやめて公園	C
	烏川と碓氷川の合流点にボートや水遊びのできる場所を作る	F
その他	電車などで出かけるときの通過点として利用	A
	夜間の交通手段（公共的なもの）を補充・追加してほしい	B
	プール、温泉、フィットネス施設（第3セクターでどうか？）	B

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
A	ワカサギ・フィッシャー・イングリッシュ・ダックス・カメラ

買い物
- スズランでお米を買う
- ヤマダ電機に行く
- ドンレミーに買い物に行く
- 駅の特産品店に行く

マイナス点
- 駐車場が少なく買い物がしずらい

生活用件
- パスポートを取りに行く
- 銀行に行く
- 犬の散歩

乗り物
- 新幹線に乗る

意見のまとめ

◇ 買い物や生活用件でまちに行く

◇ 電車などで出かけるときの通過点として利用

◇ まちにレジャースポットが無い

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
B	ゆとり・BEN・塾長・新幹線

楽しむ	まちに望むもの
・カラオケ ・夜の大人の飲食のための移動手段 ・映画館 ・ウォーキング	・育児所（一時） ・子供・孫との交流 ・バスの運営時間（夜の交通手段として） ・プール、フィットネス、温泉施設 ・ゆとり（交通手段バスなど） ・駐車スペース

生活用件
・病院 ・働く（仕事） ・学ぶ ・ホテルなど寝泊まり

意見のまとめ

◇ 夜間の交通手段（公共的なもの）を補充・追加してほしい

◇ 託児所（買い物中など）

◇ プール・温泉・フィットネス施設（第3セクターでどうか？）

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
C	ヒロ・りんご・いちご・梨

趣味

・散歩

・朝店が開くのが遅いので散歩か、タリーズに行く

遊ぶ・学ぶ

・子育て

・図書館に行く

・公園に行く

生活用件

・買い物

・食事

・寝る

意見のまとめ

◇ 子育てのインフラ→中心市街地

◇ イオンをやめて公園

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
D	さわさん・スギさん・しかりさん・秋さん

娯楽

・映画
・孫たちと遊ぶ
・友人つくり

趣味

・高崎は安全な街なので買い物をしながら、散歩をする。

・定期演奏会（群響）

まち・市に望むもの

・大型のショッピングモールはあるが、若いお母さん向きであり、お子さん向きではない。子供も楽しめる施設を！

・高崎の市街地は散歩に適してない。信号が多く、足を止めざる得ない。ショッピングをしたり、休んだり両立できるまちづくりを！

・榛名湖の水利用（水力発電→電気代が安くなる）

・ケーブルカー設置（高崎市役所屋上↔観音山

・自転車→JR施設から無料でいただく。

・スーパーモールを作る

意見のまとめ

◇ ショッピングをしながら散歩・（孫達）と遊べ、仲間づくり

◇ 映画・趣味等の遊びをして、夕方呑みに行く

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
E	きりちゃん・イマイちゃん・アッシー・こんちゃん・忠夫ちゃん

観る・イベント
- 美術館や図書館に行く
- 映画
- もてなし広場
- 祭り

生活用件
- 買い物
- 駅利用・Eサイト

趣味・食べる
- ウォーキング
- ランチ
- ラーメン屋さがし

意見のまとめ

◇ 食事（ランチなど）に来る

◇ 文化施設（美術館・図書館・公民館など）

◇ イベント（もてなし広場・祭り）

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
F	スミちゃん・まる美ちゃん・しげさん・なおちゃん・お姉さん

イベント

・マーチングフェスティバルをもりあげる

・スタンプラリー（公共施設・お店を利用したらポン！）

・アマチュア美術展（空いているお店などの壁を利用）

施設

・スポーツをする所

・ボート（河川を利用）

・子供の遊び場

・買い物、習い事中の託児コーナー（短時間利用、スタッフは保育士やベビーシッターなどの経験者）

・遊ぶ子供を見守る

暮らし

・買い物

・気軽に入れる店（カフェ）がほしい

・中継拠点都市

・ボランティア

・歩道にトイレの新設、増設

・住みよいまちでこれからも楽しみたい

・暮らす（住みやすい町、住みたい町）

↓

・生活環境を整えたい

交流

・公民館（広い）で人と会話したい

・若いお母さん方と話し相手になる

意見のまとめ

◇ まち中に子供を預け遊ばせてもらえる場所を作る（ボランティアで託児所や話し相手）

◇ まち中に気軽に入れるカフェを作り、アマチュアの美術・工芸品を飾り販売

◇ 烏川と碓氷川の合流点にボートや水遊び場のできる場所を作る

討議1『あなたは高崎のまちで何をする？』

グループ	メンバー
G	ハギワラ・かしま・さいとう・タカギ・和田

生活用件
- ・食事
- ・買い物
- ・勉強、体験
- ・のんびりすごす
- ・育児

趣味
- ・スポーツ
- ・美術
- ・音楽

イベント
- ・パスタ博覧会（オリオン座跡地利用）

施設
- ・広いフリースペース（市民イベント用）
- ・高崎が広域なので、会場が点在している

意見のまとめ

◇ 生活、暮らし、衣食住を楽しむ

◇ 仕事をする・勉強をする

◇ 休日を楽しむ（趣味・子育て・買い物・スポーツ・芸術）

【討議２】『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

＜討議の目的＞

討議参加者が持つ「子どもが集まるまち」の、情報、認識、傾向等について話し合うことで、「子どもが集まるまち」のイメージを共有します。また、討議３以降での具体的な施策を討議する際の参考にすることが目的となります。

＜情報提供の内容＞

高崎子供憲章等を紹介し、本討議会の趣旨説明も兼ねて改めて「子ども」や若い世代を中心市街地に集客することの重要性について確認し理解を深めました。

＜討議結果の考察＞

全体的な傾向としては、公園などの人や自然との「交流の場」に対する意見が多く見受けられました。前橋市の「るなぱあく」や伊勢崎市の「華蔵寺公園」など具体的な名称もあがり、各地で子どもや家族連れを集めている例を参考に意見が出ていました。「子どもと一緒に遊べる」、「親子で遊べる」、「普段触れ合えない人とのふれあい」など、「子ども」を介しての「家族」や「他の大人」たちにまで及ぶ「交流」についての意見が印象的でした。

また、「育児」や「子育て世代の働き口」など、子どもを取り巻いた生活面における不安等の意見も見受けられました。他にも、まちなかに禁煙エリアを設ける等、子どもに対する環境面での配慮も必要とする意見もありました。

討議２では「子どもが集まるまち」に対する印象として、遊園地のような分かりやすい集客施設から、子どもに限らず親世代、他の大人たちも交流を持てる公園などの多目的な施設まで、広く「交流」を意識した意見が色濃く出る結果となりました。また子どもを受け入れる「まち」について、子育て世代を中心とした就業環境の整備や、禁煙エリアの提案等、広く環境面に配慮した意見も出ており、討議参加者が持つ現状の高崎のまちに対しての不安や課題点を確認することができました。

※意見詳細は、ワークシートをご参照ください。

＜討議結果のまとめ＞

討議２　『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

分類	意見のまとめ	班
子ども向け施設	イオンモールの一部を第3セクター化→子どもの遊べる空間（元気プラザ21・プール・キッザニア）	B
	華蔵寺公園、るなぱあくのような安い遊園地	E
	あそび場の整備	F
	子どもが健康的に遊べるところ（思い出づくり：プリクラセンター等）	G
文化・芸術・交流	公民館等で子ども・親等が年配の方々と一緒に工作等触れ合える	C
	スポーツ施設等で親子がゲームができるところが必要です	C
	子どもと一緒に遊べる場所	D
	楽器など趣味別の文化的交流	F
	普段触れ合えない人とのふれあい（老人ホーム、障害者）	G
	公民館を利用して手軽な英会話や学習ができる	G
自然	幼少期の思い出から、ロバに乗って町中を散策できた。まちかどに動物がいるまち	A
	自然、動物と触れ合う場所（アンデルセン公園）→高崎公園を活用	B
	安全で自然がたくさんある場所（観音山ファミリーパーク、福祉センター、ぐんまの森、市内のデパート施設）	D
	自然（公園）と商業の両立	E
環境	働く場が充実しているまち。収入面で安心して、結婚して子育てできるまち。	A
	市中に禁煙エリアをしっかり設けているまち（スズラン前周辺は課題では）	A
	環状線の線路整備（高崎―太田をつなぐ）	B
	仕事先が必要です（若い人たちの）	C
	市内の空き店舗活用	D
	既存施設の有効活用	E
	インフラ（部屋数が少ないなど）住む場所	F

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
A	イングリッシュ、ダックス、塾長、秋さん、かしま

安全

・禁煙エリアをしっかりと設ける（スズラン前限定）

・まち中で遊ぶ安全確保

・親がまず魅力を感じる必要あり

（安全、特に交通面・車と自転車の安全分離）

遊び

・烏川でのボート乗り

・幼少期の記憶（ロバの馬車に乗って、町中散策・復活）

生活面

・市内循環バスの充実

・働く場が充実していること（収入面）

・安心に結婚できて子供を産み、育てることのできるまち）

学ぶ

・気軽に英語に触れることができる場がある（英語の歌・ALTの校外での活用）

意見のまとめ

◇ 働く場が充実しているまち。収入面で安心して、結婚して子供を産み育てることのできるまち。

◇ 市中に禁煙エリアをしっかり設けてあるまち。特にスズラン前周辺

◇ 幼少期の思い出から、ロバに乗って町中散策ができるまち。まちかどに動物がいるまち。

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
B	ヒロ・さいとう・お姉さん・新幹線

生活環境

・親が生活しやすい

・なんでも教えてもらえるリーダーがいる

・育成会の充実

・共通の話題がある友達がいる

・食育

・子育てしやすい環境

・安全であること→小学校の隣の公民館に児童は毎日通っていました。親も安心でした

まち

・「東京より高崎だよね」憧れられる街

・ほしいものが手に入る

交通

・高崎～伊勢崎を電車でつなげる

施設

・小動物と触れ合う場所

・USJが人気、船橋アンデルセン公園

・自然と遊べる

・親子で一緒に遊べる場所

・自由に遊べる空間

・子供→音楽（音楽センターを開放）

・元気プラザ21

・伊勢崎にあるキッザニア、コスプレごっこ遊びなどができる

・イオンモールは地方都市の子供のたまり場、文化の発信地である

・子供→プール（イオンモールの中に第3セクターでプールを入れる

・子供の好奇心を触発する

（子供フォーラム、コンテストなど）

意見のまとめ

◇ イオンモールの一部を第3セクター化→子供の遊べる空間（元気プラザ21・プール・キッザニア）

◇ 自然・動物と触れ合う場所（アンデルセン公園）→高崎公園を活用

◇ 環状線の線路整備（高崎―太田をつなぐ）

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
C	さわさん・BEN・まる美さん・しげさん

・集まって遊べる公民館 ・年寄りが子供に教える ・年寄りと子供が一緒に工作したり ・部活以外のスポーツができる教室 ・ちょっと静かにマンガが読める場所 ・自由感（自分で遊びを考えたり、変えられる場）	・若い夫婦が勤め先がないからこどもが少ない ・1～3歳託児所がたくさんあるまち ・3～5歳就学前一人で遊ばせるところ ・6～12歳動物園 ・12～15歳中学生 ・15～18歳高校生
・公園、運動施設、動物園 ・民間がスポーツ施設を ・スポーツができる場所 ・ペットと一緒に遊べる公園 ・自由に遊べる場所（空地）	
・スケボー少年が安全に集まれる場（民間） ・ボート乗り場（烏川と碓氷川） ・いろいろな店や広場、病院など生活しやすく人が多く集まる場	

意見のまとめ

◇ 公民館等で子供・親等おじいさんと一緒に工作等が出来る事

◇ スポーツ施設等で親子でゲームができるところが必要です

◇ 仕事先が必要です（若い人たち）

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
D	イマイちゃん・スギさん・ハギワラ・しかりさん・タカギ

・観音山ファミリーパークが楽しい ・自然→群馬の森、浜川運動公園 ・屋内→福祉センター ・子供が安全に遊べる場所 ・高崎公園など市内公園で遊びたい ・町中公園。親子で公園デビューしたい ・市内の空き店舗を活用

・子供と一緒に遊べる場所 ・スズラン7階親子で遊べる

意見のまとめ

◇ 安全で自然がたくさんある場所（観音山ファミリーパーク・福祉センター・ぐんまの森・市内のデパート施設）

◇ 市内の空き店舗活用

◇ 子供と一緒に遊べる場所

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
E	いちご・ワカサギ・ゆとり・和田・カメラ

・お堀、さくら、つつじを有効活用したら

・観音山、カッパピア跡地、河川敷

・高崎城の復元

・町中を商業施設のみにしないで広いスペースを作ったら・・・

・屋内で遊べる所（プールなど）

・きれいなトイレがある公園

・自然を増やす（緑、川、水辺）

・自然の広場

・子供と一緒に物作りが出来るまち

・公園の充実（小川があるような）

・ザリガニつり

・天気に左右されない遊べるスペース

・六供プールのような公共＋公共のような施設づくり

・子供公園を作り、そこへ行くと子供同士で遊べる場所

意見のまとめ

◇ 自然（公園）と商業の両立

◇ 既存施設の有効活用

◇ 華蔵寺公園・るなぱあくの様な安い遊園地

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
F	フィッシャー・忠夫ちゃん・りんご・こんちゃん

・住む所がない（2LDKとかしかない） ・つりを通した交流 ・水遊びができる公園 ・公園に砂場がない ・音楽（ミニコンサート、町中コンサート） ・気軽に音楽を楽しめる場 ・子ども図書館

・楽器を通して交流

意見のまとめ

◇ インフラ（部屋数が少ないなど）住む場

◇ あそび場の整備

◇ 文化的交流

討議2『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

グループ	メンバー
G	梨・きりちゃん・スミちゃん・アッシー・なおちゃん

・老人ホームで（デイケア）で子供を預かる） ・障害者と接触できる場を増やす ・障害の子供と仲良くなる（設備の向上） ・ALTともっとフランクに接触できる場 ・手軽な英会話ができる場 ・屋外で体を動かして遊べるミニ公園	・市民みんなが子供たちを見守る雰囲気
・公民館を利用して何かできないか？学習、補習、システム的な ・思い出づくり　例：プリクラセンター（ゲームセンターではない） ・子供が健康的に遊べる所	

意見のまとめ

◇　普段接触できない人とのふれあい（老人ホーム・障害者）

◇　公民館を利用（手軽な英会話・学習・補習）

◇　こどもが健康的に遊べるところ（思い出作り（プリクラセンター））

【討議３】
『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

＜討議の目的＞

「子ども向け都市型集客施設」という仮説のもとに、討議参加者に「子ども」を意識した集客施設を考えてもらい、高崎のまちが子どもで賑わう姿をイメージしてもらうこと。また、討議４以降において具体的施策を討議する際の参考にしていただくこと。

＜情報提供の内容＞

佐賀県佐賀市「原っぱ」を使った街中再生案、横浜美術館「子どものアトリエ」、前橋「前橋プラザ元気２１」、高崎「たかさきキッズパーク」等、子どもの集客施設として興味深い事例を紹介し討議の参考としました。

＜討議結果の考察＞

討議３で最も票を集めたのは「空き家利用」という意見でした。既存の施設や設備を有効利用するという「箱」に対する意見が共感を集めたようです。第２位は「高崎の文化に触れることのできる博物館や小規模水族館」です。地元の文化に触れ、子ども達が学べる様な施設や、「水族館」という海なし県ならではの意見が票を集めました。そして第３位は、「買い物＋αができる施設（朝活、習い事、朝食）」というものでした。高崎のまちに来る理由の一つとして「買い物」をあげ、それに加えて何か誘因を作れないか？という意見でした。

その他には、全体的に「職業体験」などの学びながら遊べる施設、「キッズコーナー」や「子ども図書館」、といった案が多く提案されました。人だけでなく、自然や動物、様々なものと触れ合える場が欲しいという案も出ました。

また新しく施設を作るよりも空き家や既存の施設を利用した案が多く、都市型の集客ということでコンパクトながらも充実した複合施設が求められているようです。

※意見詳細は、ワークシートをご参照ください。

＜討議結果のまとめ＞

討議３『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

＜投票の結果＞

順位	票数	意見のまとめ	班
第一位	**１４票**	**空き家利用**	G
第二位	**９票**	**高崎の文化に触れることのできる博物館や小規模水族館**	E
第三位	**８票**	**買い物＋α ができる施設（朝活、習い事、朝食）**	C

分類	票数	意見のまとめ	班
文化・交流	9	高崎の文化に触れることのできる博物館や小規模水族館	E
	5	高崎城跡に城を建てる	B
	5	高齢者の知識を利用	D
	5	地域の人材（高齢者や職人）と触れ合える場所	F
	3	音楽センター跡地活用（高齢者と子どもの触れ合う場）	A
	1	図書館の有効利用	B
体験	7	地域の職業体験	E
	6	高崎ならではの職業体験施設	D
	6	普段できない事を子どもが体験できる	F
	4	文化会館等リフォームして幼児向け職業体験	G
		職業体験、学習など子どもが選んで参加できる	F
環境	14	空き家利用	G
	8	買い物＋α ができる施設（朝活、習い事、朝食）	C
	6	屋内、屋外のバランスをとる（箱物の割合は少なく）	D
自然	6	高崎公園を動物と触れ合えるように	A
	6	自然版キッザニア	C
娯楽	5	コンパクトで安価な遊園地	B
		イオンモール第3セクター化①プールフロア②遊具キッズフロア③温泉フロア	A
		子どもが自由に考え遊べるフリースペース	E
交通		駐車場を増やす、もしくはシャトルバス（ねこバス）	G
その他		移動式施設（動物園、飲食店、畑）	C

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
A	しげさん、新幹線、こんちゃん、お姉さん

施設

・親子で遊べるキッズ図書館

・イオンモール

①プールフロア
②温泉フロア
③遊具キッズフロア

・キッザニア風の職業体験施設
・高齢者と触れ合える施設

屋外施設

・自然や動物と触れ合える公園

その他の意見

・デイサービス
・おじいさん、おばあさんと一緒に遊べる
・高齢者とふれあう場
・もてなし広場
・医療センター→先進医療センター
・交通手段の充実

意見のまとめ

◇ イオンモール第3セクター化①プール②遊具キッズフロア③温泉フロア④キッズ図書館

◇ 音楽センター跡地活用（高齢者と子どもの触れ合う場）

◇ 高崎公園を動物と触れ合えるように

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
B	ハギワラ、イングリッシュ、いちご、カメラ、梨

屋外施設
- 安価な遊園地
- 城

屋内施設
- 図書館
- リトミック教室
- 多目的ルーム
- 司書体験
- イングリッシュカフェ

その他
- コンパクト
- マイナー感が良い
- 地域の人とつながりができる

意見のまとめ

◇コンパクトで安価な遊園地

◇図書館の有効利用

◇高崎城跡に城を建てる

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
C	BEN、きりちゃん、ヒロ、りんご

移動式
- 移動式動物園
- フードワゴン

体験
- 自然版職業体験
- 田んぼ

その他
- 高チャリの馬バージョン
- 温泉付き遊園地
- 医療施設
- 食育

意見のまとめ

◇自然版キッザニア

◇移動式施設（動物園、飲食店、畑）

◇買い物＋α ができる施設（朝活、習い事、朝食）

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
D	スギさん、アッシー、ワカサギ、ゆとり

体験	その他
・物作り体験ができる場所 ・野菜作り ・親子の集まれるスペース	・日本語以外の言葉や文化が学べる ・子ども同士でふれ合い、気軽に食事ができる ・交通手段が整っている ・箱物を少なく、屋外施設を増やす

意見のまとめ

◇屋内、屋外のバランスをとる（箱物の割合は少なく）

◇高齢者の知識を利用

◇高崎ならではの職業体験施設

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
E	なおちゃん、和田、しかり、さいとう、かしま

体験

・職業体験
・英語のみ話す
・パソコンや楽器の体験
・保健所で犬や猫の世話

施設

・パスタ博物館
・子ども水族館

フリースペース

・子どもが自由に考えながら遊べる場
・遊具のある施設

意見のまとめ

◇子どもが自由に考え遊べるフリースペース

◇高崎の文化に触れることのできる博物館や小規模水族館

◇地域の職業体験

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
F	スギさん、サダオ、まる美、秋山、忠夫ちゃん

ふれあいの場
- 職人や高齢者と触れ合える場所
- 色々なものに触れることのできる場所

室内施設
- キッズコーナー
- 知的学習イベント

その他
- 子どもの年齢別に楽しめる場所
- 雑誌、絵本、コミックも全てある
- お母さんのリラクゼーションエリア

意見のまとめ

◇普段できない事を子どもが体験できる

◇地域の人材（高齢者や職人）と触れ合える場所

◇職業体験、学習など子どもが選んで参加できる

討議3『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

グループ	メンバー
G	さわさん、フィッシャー、ダックス、イマイちゃん、塾長さん

空き家利用
- 空き店舗に小動物
- 空き家でサークル活動

体験
- 職業体験

移動手段
- シャトルバス
- ねこバス

その他
- 文化会館をリフォーム活用

意見のまとめ

◇駐車場を増やす、もしくはシャトルバス（ねこバス）

◇文化会館等リフォームして幼児向け職業体験

◇空き家利用

【討議４】
『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。
そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

＜討議の目的＞

高崎のまちに「家族」を呼び込むためには「子ども」だけではなく、子どもを連れてくる「大人」についても意識する必要があります。討議４では、大人が行きたくなる、大人が子どもを連れていきたくなる「まちの仕掛け」について討議し、討議５において具体的施策を討議する際の参考にすること。

＜情報提供の内容＞

高崎市都市整備部公園緑地課課長補佐の奥野正佳氏より、烏川河川敷周辺の今後の開発についてお話しをいただきました。高崎のまちからも近い位置にあり、今後の活用が期待されている同エリアについて学び、今後の開発計画について理解を深めることで、討議４以降のアイディア創出の参考にしました。

＜討議結果の考察＞

討議４では、子どもを意識したうえで、なおかつ大人も楽しめる「まちの仕掛け」という少し難しいテーマ設定にもかかわらず、活発な討議が行われました。各グループ内で様々な意見が出た中、「市役所の屋上から観音山までロープウェイでつなぐ」、「街中水族館で身近な淡水魚とふれ合い、観察する」など、とても斬新な意見が票を集めました。

「自然体験」、「農業体験」など、娯楽だけではなく子どもの体験学習に趣きをおいた意見が目立った印象ですが、全体的に言えるのは高崎のまちに「現在あるもの」や「自然」、「川」等の「ロケーション」を活かした形での意見が多数を占めていたということです。また子ども、大人が一緒になって楽しめる「参加型」や「体験型」の施設やイベントについての意見も多く見受けられました。

上記の結果より討議４では、新たに集客施設を建てることよりも、今ある身近な場所を利用してすぐに取り行う事が出来るイベントなどに多くの方々から共感を得ていました。

※意見詳細は、ワークシートをご参照ください。

＜討議結果のまとめ＞

討議４『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。
そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

＜投票の結果＞

順位	票数	意見のまとめ	班
第一位	**１８票**	**市役所屋上から観音山までロープウェイでつなぐ。**	G
第二位	**９票**	**街中水族館で身近な淡水魚とふれ合い、観察する。**	B
第三位	**７票**	**アーケードの直線を生かす。（三輪車レース・店からの借り物競争など）**	D

分類	票数	意見のまとめ	班
参加・体験	8	親子で楽しめる自然体験（農業体験や河川敷を活用）	F
	6	河川敷や空農地を利用して、農業体験。釣り堀で魚釣り、農園で作った農作物を料理・販売する。	G
	5	子供向け体験学習の中に大人向けも作る。	B
	5	高崎機関区跡地を利用して、子供と一緒に乗車運転を体験する。	B
	5	親・子・孫と一緒にゲーム感覚で参加出来るイベントを行う。（例えば宝探しなど・・）	C
	4	親子で対決イベント（計算ドリル・語学・写生大会・感想文など・・）	G
	3	子供と一緒に楽しむ仕掛けを作る（農業体験・料理体験・DIY・野菜直売・昔のおもちゃ）	E
環境	18	市役所屋上から観音山までロープウェイでつなぐ。	G
	9	街中水族館で身近な淡水魚とふれ合い、観察する。	B
	7	アーケードの直線を生かす。（三輪車レース・店からの借り物競争など）	D
	4	エリア制⇒移動カフェ・人情市を移動させるなど・・・・	A
	3	街並みの提案①別世界（非日常的：衣装・仮想通貨）②懐かしの街並み（ベーゴマ・メンコなど）	D
	2	烏川や観音山を結ぶサイクリングロード・交通の良さもアピール	F
	2	家族連れで来やすいインフラ設備（段差をなくす・ベビーカー対策）	D
文化	2	文化会館の再利用①プラネタリウム②子供向けイベント	E
娯楽	1	施設（安全確保）⇒小規模な遊園地・動物とのふれあいなど・・・	A
その他	6	上記内容のイベントの結果や写真などを上毛新聞等を活用して発信する。	C

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
A	アッシー・りんご・イマイちゃん・ヒロ

施設（エリア別）

・エリア制（大人、子供、シルバー）
・移動カフェ
・人情市を移動させる
・バーベキューが手ぶらでできるところ
・農産物を販売
・パブリックスペース

生活・環境

・ゴミはどんどん捨ててよいことに
・ポイントカード

施設（安全確保）

・小規模な遊園地
・安心、安全の確保（子供が預かれる）
・動物とのふれあい（子供体験）
・ベビー対応トイレ（新設、増設）
・木陰の確保

交通・送客（駅～川岸・周遊・送客）

・高崎学検定
↓
・高崎駅から人力車
・高崎駅からシャトルバス
・馬車

意見のまとめ

◇ エリア別

◇ 安全の確保

◇ 駅～川岸・周遊・送客

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
B	さいとう・しげさん・お姉さん・フィシャー・こんちゃん

施設

・子供向け集客施設：例えばキッザニアの様な体験施設に大人向けの体験もある。→ハローワーク・求人コーナー　リラクゼーション効果もあるところも

・子供が塾で勉強している間に、大人は自分の勉強をする塾

・英語しか話してはいけないお店

・子供向け音楽教室で待っている間、大人向け教室がある

・高崎機関区：跡地を利用して、子供と一緒に乗車運転を体験する

・街中水族館（空き家利用）で身近なアユ、マス、ヤマメなどふれあい観察する

・街中で動物と触れ合う（乗馬、ウサギ）

イベント

・町中コンサート：リクエストや好きな楽器に触れる

意見のまとめ

◇ 街中水族館で身近な淡水魚等とふれ合い、観察する

◇ 高崎機関区跡地を利用して、子供と一緒に乗車運転を体験する

◇ 子供向け体験学習の中に大人向けも作る

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。
そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
C	忠夫ちゃん・スギちゃん・ハギワラ・ゆとり

イベント
・親子、孫と一緒にゲーム感覚で参加できるイベントを定期的に行う（勝負、順位など広報に発表する）
・オリエンテーション
・クイズで宝探し（競争させる）
・カブトムシ探し（指定場所の写真、カブトムシプレゼント、コースを変える）
・ホームページで結果を発表する（広報など）
・グループでの参加（3名以上とか）

意見のまとめ

◇ 親・子・孫と一緒にゲーム感覚で参加できるイベントを定期的に行う。
例えばオリエンテーリング・宝探し（町なかの商店にも協力）

◇ 広報等に結果（上毛新聞他）、勝負、写真などを発信する。
競争心を煽るようなイベントを（大人が夢中になるかも・・）

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
D	塾長・秋さん・しかり・イングリッシュ

施設

・東京ディズニーのミニ方式（店員さんも衣装着てなりきる、仮想通貨、キティちゃん等キャラクターの店、右と左で全く別テイスト）

遊び

・子供には新鮮、大人には懐かしい

・ベーゴマ、メンコ、竹とんぼ

・動物とのふれあいスペース

・古民家風：おじいちゃん、おばあちゃん、昔ながらのおやつ（カルメ焼き、ピンク色の赤飯、焼きまんじゅう、特色がある食）

施設

・アーケード：今、さびれている、どうにかしよう！（直線を活かす、三輪車レース、花嫁レース、借り物レースなど）

・女性を引き付ける別世界：街並み、外観

環境・生活

・点字ブロックはベビーカーには厄介（点字レールの様な溝）

・広い道、それぞれ分ける、歩道と車道の段差（来やすい場所）

・大人も体験できる場なら子連れでくる

意見のまとめ

◇ アーケードの直線を生かす。（三輪車レース・店から借り物競争など）

◇ 街並みの提案。①別世界（非日常的：衣装・仮想通貨）②懐かしの街並み（ベーゴマ・メンコなど）

◇ 家族連れで来やすいインフラ設備（段差をなくす・ベビーカー対策）

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
E	ダックス・スミちゃん・新幹線・いちご・かしま

・2人でこげる自転車がある

・サイクリングロードの充実：県外（二子玉）では整備されている。群馬に来たら自転車用道路が整備されていない（走りにくい）

・河川敷に無料駐車場整備→モノレールで高崎駅と結ぶ仕掛けを作る

・河川敷はスポーツ観覧と春は花見、秋は紅葉が楽しめる

・河川敷に船着き場を作り、遊覧船を走らせる

・サイクリングロード増設（いろいろな地域も楽しめる）

・高崎市文化会館2階の「少年科学館」の拡大、充実。吹き抜けをやめ、完全2階式にして、科学機器の展示を増やす。子供も大人も夢中になる

・プラネタリウムへ行くと関心がたくさんあるので楽しんでしまう

・高崎市は脱車社会のインフラを作るべき高チャリじゃ不十分

・リーズナブルなフードコート

・とにかく無料で遊べる物！

・子供向け集客施設の所に野菜の直売所、お茶コーナーなどを作る

・親子でできる農業体験

・親子でできるDIY（材料、工具がある）

・親が子供の頃に遊んだものの再現（子供と一緒に遊ぶ）

・昔懐かしいおもちゃがあり、あそべる

・親子でできる料理体験

・子供のイスのついた自転車がある。（電動）

・パスタの街たかさきの象徴として「パスタ博物館」の創設。子供を連れて行ったら中で、パスタ料理体験コーナーがあり、最初は子供に作らせ、親が手を出すうちに一緒に夢中になる。出来た料理は親子で食す。

意見のまとめ

- ◇ 子供と一緒に楽しむ仕掛け作り①農業体験②料理体験③DIY④野菜直売⑤昔のおもちゃ
- ◇ 河川敷の利用①無料駐車場②遊覧船③サイクリングロード④2人漕ぎ自転車
- ◇ 文化会館の再利用①プラネタリウム②子供向けイベント

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
F	和田・カメラ・タカギ・ワカサギ・きりちゃん

・おもしろ自転車：大人＋子供で遊べる
・ゲーム性、スタンプラリーなど
・本能で楽しめる場所
・童心に戻れる内容
・河川敷にレンタル自転車（3人乗りと変わったもの）

・用水路とかでどじょう取り
・リアルな自然を創作する
・浅瀬に子供が遊べるスペースを作る
・サケの放流をもっと知らせる
・農業体験（栽培したものをそこで食べる）

意見のまとめ

◇ 親子で楽しめる自然体験。（農業体験や河川敷を活用）

◇ 烏川や観音山を結ぶサイクリングロード。交通の良さもアピール

◇ 名所めぐり・スタンプラリー

討議4『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

グループ	メンバー
G	さわさん・まる美さん・なおちゃん・BEN・梨

・観音山とカッパピア跡地を一体化して、子供も大人も楽しめる場所に。（遊園地、散策できるよう） ・観音山でサバイバル ・いろいろな自転車：大きい車輪、４人乗り ・市役所屋上から観音山へロープウェイを作る	・名称変更（烏川→白鳥や） ・農業体験：一緒に料理して食べる、農作物を売ってみる、食べたり、しゃべったりできる場もある
・高チャリ→高馬車 ・オートキャンプ場 ・子供と一緒に大人も学ぶ ・親VS子計算ドリル、読書感想文、語学、文化など対決	
・子供写生大会（大人も参加） ・芸術の秋、焼き芋がしたい（落ち葉で） ・子供が遊べる遊具が充実している ・釣り堀川床（夏）	

意見のまとめ

◇ 市役所屋上から観音山までロープウェイでつなぐ。（カッパピア跡地を一体化し、アスレチックやサバイバルなど）

◇ 河川敷や空農地を利用して、農業体験。釣り堀で魚釣り、農園で作った農作物を自分たちで料理・余ったら売る

◇ 親子で対決イベント（計算ドリル・語学・写生大会・感想文など）

【討議５】　『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

＜討議の目的＞

討議５では、モデルエリアを「高崎のまち～烏川河川敷エリア」に設定し、川沿いを利用して「家族が楽しめるまち」について考えました。これまで討議した意見やアイディア、情報をつなぎ合わせ、「烏川河川敷」を舞台に、高崎のまちが家族連れで賑わうための具体的な施策を生み出すことが目的となります。

＜情報提供の内容＞

東京都世田谷区、静岡県沼津市の例をあげ、川沿い、河川敷の開発や活用事例を紹介しました。世田谷区の事例は、都市開発の一環としての多摩川河川敷の公園整備や興味深い活用方法について、沼津市は地域住民と行政が共同して取り組む、狩野川とその河川敷の利活用と運営等について紹介し、各地域での河川敷を取り巻くまちづくりについて共有を図りました。

＜討議結果の考察＞

全体投票の結果、第１位は同数で２つ選ばれました。一つ目は「河川敷に駐車場を作り、イオンバスのシャトルバス化（費用はイオン）。河川敷でのイベントを駅前の巨大テレビジョンで中継する。」と、二つ目は「河川敷でバーベキュー。街中で買い物すると割引となるチケット付き。買い物リストマップを作り、街中で買い物をしてもらう。」というものでした。一つ目の意見は「高崎のまちから河川敷」という現実的なアクセスの問題に関心が集まった結果、支持を集めることとなりました。二つ目の意見は、河川敷というロケーションを活かしたアイディアであり、尚且つ高崎のまちの商店や施設を利用することで高崎の市街地活性化にも繋がるような、機能性のあるアイディアとして支持を集めました。

第３位は「高崎城址に高崎城のようなＰＲできるものを作り、散歩コースに」、「河川敷に簗（やな）を作り夏場営業、浅瀬を人工的に作り子ども達が魚とり等できる施設の設置」、「駅から河川敷の移動手段を楽しむ」の３つでした。一つ目は高崎城という歴史的なコンテンツを活用し、また散歩コースのような自然環境も整えることで町のコンセプトに繋げＰＲする。また二つ目は、川ならではの「簗（やな）」を河川敷に作り集客し、かつ自然体験スペースも設置することで都市と自然エリアの共存を演出する。そして三つ目は、高崎のまちを語る上で関心度の高いアクセスや交通の問題を「楽しむ」という切り口で展開しました。３～４人乗りの高チャリを用意する、高崎駅から河川敷まで水路を整備し船で移動できる等、今のまちからは想像できない画期的なアイディアが投票数で優位に立った印

象があります。

支持された意見以外でも、烏川河川敷の利活用についてはバーベキューや自然体験等のレジャー関連の意見が多く見受けられました。またそれらの周辺には、手洗い場やトイレ、授乳スペースやおむつ交換台等、若い子育て世代を意識した施設を充実させる必要があるとの意見もありました。

本討議における舞台として「高崎のまちから烏川河川敷」を設定しましたが、討議参加者の強い関心を感じることができました。中には交通・アクセス面をはじめネガティブな意見もありましたが、高崎のまちや河川敷の利活用に関するポジティブな意見の中では、今後の「高崎のまちの在り方」を考えるうえでの貴重なアイディアが生まれたと思います。群馬県を代表する都市でありながら、駅から徒歩圏内には豊かな自然があり子どもや家族連れも楽しめる。そんな高崎のまちづくりを参加者一人ひとりが真剣に思い描いた結果ではないかと考えています。

※意見詳細は、ワークシートをご参照ください。

＜討議結果のまとめ＞

討議５『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

＜投票の結果＞

順位	票数	意見のまとめ	班
第一位	**１０票**	**河川敷に駐車場を作り、イオンバスのシャトルバス化（費用はイオン）駅前の巨大テレビジョンにてイベントの様子などを映す。（ヤマダ電機）**	E
第一位	**１０票**	**河川敷でバーベキュー。街中で買い物すると割引となるチケット付き。買い物リストマップを作り、街中で買い物してもらう。エリア内でコインとして使える。**	G
第三位	**７票**	**高崎城址に高崎城のようなPRできるものを作り、散歩コースに。（例）高崎城址、高崎公園、河川敷のコース（高崎公園の整備）**	A
第三位	**７票**	**ボートの営業、簗（やな）の夏場営業や浅瀬を人工的につくり子ども達が魚とりをできる施設の設置。ゴーカート、ポケバイ等のコースやランニングコースの整備（河川敷マラソンの開催）**	D
第三位	**７票**	**駅-河川敷の移動手段を楽しむ。①高チャリ３～４人乗り（保証金を高めに）②水路を作りボートやゴンドラで移動できるように。**	F

分類	票数	意見のまとめ	班
レジャー	3	バーベキューコーナー、サイクリングコース、遊歩道、せき止めてボート	B
	7	ボートの営業、簗（やな）の夏場営業や浅瀬を人工的につくり子ども達が魚とりをできる施設の設置。ゴーカート、ポケバイ等のコースやランニングコースの整備（河川敷マラソンの開催）	D
	4	ランニングコース、サイクリングコース、起伏のあるアクティブで特色のあるコースを作る。足湯やランナーズロッカーを整備して利用しやすく。	F
	10	河川敷でバーベキュー。街中で買い物すると割引となるチケット付き。買い物リストマップを作り、街中で買い物してもらう。エリア内でコインとして使える。	G
	4	キングオブパスタのイベントとあわせる。（投票とデザートがもらえる。）	G
自然	7	高崎城址に高崎城のようなPRできるものを作り、散歩コースに。（例）高崎城址、高崎公園、河川敷のコース（高崎公園の整備）	A
	4	自然とのふれあい（水の流れに人工的な枝川をつくり自然体験）	A
	2	自然に手を加えない、そのままの姿のエリアを残す。来訪者のための無料駐車場の整備。	D
	3	高崎公園にイングリッシュガーデンを復活、拡大させる。	E
環境	4	各種インフラの整備（水飲み場、足洗い場等）を設けエリア作りをする。エリア→楽器等の練習場、ドローン飛行場、野球やサッカー場、乗馬など。	D
	6	「町なかダルマ探し」全問正解者にパスタ券等の賞品を進呈。	G
	6	きれいなトイレを何カ所も設け、男女ともに子ども用トイレ、おむつ交換台も設置。休憩所も兼ねた案内所（ビジターセンター）が必要。	C
交通	10	河川敷に駐車場を作り、イオンバスのシャトルバス化（費用はイオン）駅前の巨大テレビジョンにてイベントの様子などを映す。（ヤマダ電機）	E
	2	無料駐車場（立体）の整備、シャトルバスの運行（ハラダなどスポンサー）	C
	2	交通アクセスの整備（駅→河川、石原町方面→河川、駐車場の整備）（駅から河川までの専用歩道をつくる）	A

交通	7	駅-河川敷の移動手段を楽しむ。①高チャリ3～4人乗り（保証金を高めに）②水路を作りボートやゴンドラで移動できるように。	F
	5	駅―河川敷のシャトルバス（15分間隔、100円以下、無料が好ましい）を市が用意	B
文化	3	河川敷のイベントエリアを整備。たこ作りからたこあげ体験、うどん作り体験。水遊びやリバーサイドシネマ（ドライブインシアターのような）	F
その他	4	集客率のいい民間のお店を整備する。（移動販売、スターバックス、ハラダ、有名なミュージシャンの博物館など）	C
	2	河川敷で貸農園を開設。農産物は販売、河川敷でのBBQ等に利用。水上コテージを作り宿泊できるように。天然のスケートリンクやイルミネーションで県外からも集客。	E
	1	河川敷は魅力的だがアクセスが悪いため、インフラ（交通）が必要。	B

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
A	イングリッシュ、ダックス、カメラ、フィシャー、ワカサギ

導線や中継点について

・城のようなトイレ、展望台。
・河川敷への中継地点として「城」。
・中継点として高崎公園。
・「高崎公園で逢いましょう」
・烏川を目に入れさせる。
・石原町側へも抜ける道。

交通手段について

・駅前通り(車道)の真ん中に歩道を作る。
例)鎌倉八幡宮のような。
・街中から徒歩で！？
・駐車場は複数あるべき。
・シャトルバス無料
・河川敷特別割引タクシー
・土日ダイアル、平日ダイアル

河川敷での取り組み

・冬を想定した「コタツcafé」。
・水害を考えて移動式店舗(ワゴン等)
・B級グルメや屋台。
・川の水を引いて田んぼを作る。
→川辺の生き物→素足で入る
・安全に作りすぎない。自然を生かして天然のサイクルを大切に。
・枝川を人工で作る。田んぼ、池など。

宣伝や露出について

・サケの稚魚施策。
イメージキャラクターを作る
・全国ネットで取材されるような「物」。
・真似ではなくオリジナルなもの、独創性のあるもの。

意見のまとめ

◇ 交通アクセスの整備(駅→河川、石原町方面→河川、駐車場の整備)
(駅から河川までの専用歩道をつくる)

◇ 高崎城址に高崎城のようなPRできるものを作り、散歩コースに。
(例)高崎城址、高崎公園、河川敷のコース(高崎公園の整備)

◇ 自然とのふれあい(水の流れに人工的な枝川をつくり自然体験)

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
B	塾長、新幹線、BEN、ゆとり

経路の工夫
・河川敷まで楽しく歩けるアイディア
・「あと○キロで～に到着」という標識
・目的地までの距離が分かるといい。

交通手段
・スポンサー付でちょっといい自転車
・有料でちょっといい自転車
・車と自転車の分離を
・帰りが辛い
・送迎してほしい。
・街中から河川敷までの足が必要。
・直通バスをまず走らせる。

川沿いでの取り組み
・桜、紅葉、コスモスなど季節のものを植える。
・川沿いにサイクリングコースを
・子どもが魚とり
・街中にはない施設を置く。
・川まで行きたくなるようなものを置く。
・烏川サイクリングロードの整備

その他
・スタンプを集めるといいことが。
・小さな白衣観音（シンボル）
・烏川エリアを考える前にインフラ整備

意見のまとめ

◇ 河川敷は魅力的だがアクセスが悪いため、インフラ（交通）が必要。

◇ 駅―河川敷のシャトルバス（15分間隔、100円以下、無料が好ましい）を市が用意。

◇ バーベキューコーナー、サイクリングコース、遊歩道、せき止めてボート

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
C	梨、りんご、ヒロ、いちご

川沿いの取り組み

・洋式トイレ（数カ所）
・きれいなトイレを整備
・子供用トイレ（男子トイレにも）

交通手段

・シャトルバス（無料）の運行
・無料駐車場

その他

・スタバは必要
・ゴミ問題

意見のまとめ

◇ 集客率のいい民間のお店を整備する。
（移動販売、スターバックス、ハラダ、有名なミュージシャンの博物館など）

◇ 無料駐車場（立体）の整備、シャトルバスの運行（ハラダなどスポンサー）

◇ きれいなトイレを何カ所も設け、男女ともに子ども用トイレ、おむつ交換台も設置。休憩所も兼ねた案内所（ビジターセンター）が必要。

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
D	さわさん、スギさん、しかりさん、秋さん

河川敷での取り組み

・夏場のみの営業「簗（やな）」を設置
（川魚の塩焼きなど）
・ボートの営業、浅瀬での魚とり。
・ゴーカート、ポケバイのコース整備
・ランニングコースの整備
・エリアづくりをする。
サッカー、野球、乗馬、テニス。
楽器の練習
ドローンの練習場

交通手段、その他

・河川敷を利用するときの駐車代金
・歩行者と自転車の通行を分ける
・インフラの整備
水飲み場、足洗い場、安全の確保など

意見のまとめ

◇ 各種インフラの整備（水飲み場、足洗い場等）を設けエリア作りをする。
エリア→楽器等の練習場、ドローン飛行場、野球やサッカー場、乗馬など。

◇ ボートの営業、簗（やな）の夏場営業や浅瀬を人工的につくり子ども達が魚とりをできる施設の設置。
ゴーカート、ポケバイ等のコースやランニングコースの整備（河川敷マラソンの開催）

◇ 自然に手を加えない、そのままの姿のエリアを残す。
来訪者のための無料駐車場の整備。

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
E	きりちゃん、忠夫ちゃん、アッシー、イマイちゃん、こんちゃん

・貸農園を設置 ↓ ・農業の専門家に指導 ↓ ・農産物の販売 ・BBQ食材に利用 ・水上コテージ	広報・PR ・ラジオ高崎の活用 ・駅前の巨大ビジョンで河川敷でのイベントを映し出す。
・スケートリンク（天然）の整備 ・イルミネーション ・イングリッシュガーデンの復活	交通手段 ・駐車場を河川敷に作って、イオン（駅前）へバスを走らせる。

意見のまとめ

- ◇ 河川敷に駐車場を作り、イオンバスのシャトルバス化（費用はイオン）
  駅前の巨大テレビジョンにてイベントの様子などを映す。（ヤマダ電機）
- ◇ 高崎公園にイングリッシュガーデンを復活、拡大させる。
- ◇ 河川敷で貸農園を開設。農産物は販売、河川敷でのBBQ等に利用。水上コテージを作り宿泊できるように。天然のスケートリンクやイルミネーションで県外からも集客。

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
F	スミちゃん、まる美ちゃん、しげさん、なおちゃん、お姉さん

河川敷での取り組み

・リバーサイド簡易シネマをする。
・週単位、月単位でリバーサイド目的を提示。
・イベントができるスペースをエリア別でたこあげ体験、うどん作り、マラソン等
・ウォーキングコース、ランニングコース足湯やランナーズロッカーの整備

交通手段

・高チャリの３～４人乗りを作って、駅から烏川まで利用できるように。
・水路を駅から引いてボートやゴンドラで河川敷まで行けるようにする。

自然

・市民参加型で芝生やドングリの木を植える。
・水遊びのできるエリアを作る。
川の水を引っ張ってくる。

意見のまとめ

- ◇ 駅-河川敷の移動手段を楽しむ。①高チャリ３～４人乗り（保証金を高めに）②水路を作りボートやゴンドラで移動できるように。
- ◇ 河川敷のイベントエリアを整備。たこ作りからたこあげ体験、うどん作り体験水遊びやリバーサイドシネマ（ドライブインシアターのような）
- ◇ ランニングコース、サイクリングコース、起伏のあるアクティブで特色のあるコースを作る。足湯やランナーズロッカーを整備して利用しやすく。

討議5『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！
～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

グループ	メンバー
G	ハギワラ、かしま、サイトウ、和田、タカギ

河川敷での取り組み

・河川敷でBBQ。町内で買い物をすると割安に、パンフレットを作って案内。
・広報で告知。割引チケット発行。

街並みや経路

・河原までの通りをオープンギャラリーにする。
・市役所をシンデレラ城にする。
・河川敷周辺エリアをテーマパーク化する。街並みを統一するなど。

その他の取り組み

・スタンプラリー「町なかダルマ探し」
・エリア内のコイン、河原でも使える。

交通手段

・大きい駐車場を設置（もてなし広場）河川敷エリアの近く。
・市の駐車場を土日開放する。

意見のまとめ

◇ 河川敷でバーベキュー。街中で買い物すると割引となるチケット付き。
買い物リストマップを作り、街中で買い物してもらう。エリア内でコインとして使える。

◇ キングオブパスタのイベントとあわせる。（投票とデザートがもらえる。）

◇ 「町なかダルマ探し」全問正解者にパスタ券等の賞品を進呈。

当日アンケート結果

回答数３２人

VOICE.1　あなたご自身についてお聞きします。

① あなたの性別をお聞かせください。次のなかから１つ選び○をつけてください。

区　分	件　数
１．男性	１７
２．女性	１５

② あなたの年代をお聞かせください。次のなかから１つ選び○をつけてください。

区　分	件　数
１．１８歳 ～１９歳	０
２．２０歳代	０
３．３０歳代	６
４．４０歳代	７
５．５０歳代	４
６．６０歳代	１２
７．７０歳以上	２
８．無回答	１

③ あなたのお住まいの町名をお答えください。（例：高松町，上並榎町）

町名	件数	町名	件数	町名	件数
中居町	３	梢町	１	檜物町	１
台新田町	１	菊池町	１	若松町	１
下小鳥町	１	田町	１	引間町	１
日光町	１	新保田中町	１	下小塙町	１
新後閑町	１	旭町	１	並榎町	１
宮元町	１	矢島町	１	稲荷町	１
請地町	１	赤坂町	１		
飯玉町	１	阿久津町	１		
吉井町	５	下滝町	１		
山田町	１	台町	１		

VOICE.2　参加理由についてお聞きします。

○ 今回、市民討議会に参加を決めた理由をお聞かせください。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

区　分	件数
1. 討議テーマに興味があったから	15
2. 高崎市が主催に関わっているから	3
3. 日程の都合がついたから	12
4. 会場が近かったから	6
5. 報酬金があったから	4
6. 高崎市のまちづくりや計画に自分の意見が反映されるかもしれないから	21
7. 参加対象者を無作為抽出で選んでいるから	12
8. 案内を見てワクワクしたから	10
9. その他	2

※「９．その他」の理由
・友達に影響―市政に携わっている友に日ごろから感謝しているので。
・高崎の街が良くなるのであれば、参加したい。

VOICE.3　市民討議会の日程についてお聞きします。

①市民討議会の日程の設定についてお聞かせください。

区　分	件数
1. ちょうど良かった	21
2. １日じゃ足りなかった	1
3. 長かった	10
4. もっとも設けるべきだ	
5. その他	

②ＶＯＩＣＥ２０１５の日程・時間設定について

区　分	件数
1. ちょうど良かった	19
2. もっとゆっくり始めて欲しい	2
3. もっと早く終わらせて欲しい	7
4. その他	
5. 無回答	4

VOICE.4 討議についてお聞きします。

① VOICE２０１５に参加するまでに、今回のテーマ「家族と楽しむ高崎プロジェクト～きっかけは子どもから！笑顔あふれるまちづくり～」について個人的に考えたり、人と話し合ったりしましたか。あてはまるものを１つ選び○をつけてください。

区　分	件数
1. 個人的に考えた	11
2. 家族や友人と話し合った	5
3. 個人で考えたし、家族や友人と話し合った	12
4. 特に何もしなかった	3
5. その他	
6. 無回答	1

② 今回の討議テーマの対象エリアについて、あなたはどのくらいの頻度ででかけていますか？あてはまるものを１つ選び○をつけ、その理由をご記入ください。

区　分	件数
1. 週3日以上	10
2. 週1日程度	8
3. 月1回程度	6
4. 年2、3回	2
5. ほとんど行かない	3
6. 無回答	3

※「１．週３日以上」の理由
- 仕事で職場がエリア内にある。
- 対象エリアに住んでいる。
- 妻の仕事の送迎。

※「２．週１日程度」の理由
- 中央図書館へ。
- 買い物。
- 駅を毎週利用し、デパートへも出掛ける。

③ 討議中の時間についてどのように感じましたか？次のなかから１つ選び○をつけてください。

区　分	件数
1. 長い	3
2. 普通	20
3. 短い	8
4. その他	0
5. 無回答	1

④ 討議１で高崎のまちについての印象を考え、討議２では「子どもの集まるまち」について思いを巡らせながら討議をおこないましたが、新たな気づきがありましたか？次のなかから１つ選び○をつけ、その内容をご記入ください。

区　分	件数
1. 気づきがあった	23
2. 気づきがなかった	2
3. わからない	3
4. 無回答	4

※「１．気づきがあった」の内容

・新たな目線で、町中を見れました。（３０代男性）
・子どもの集まるまちとは家族が住むところで仕事があるところ。（その着眼点は新鮮でした）（５０代女性）
・知らない施設を知ることが出来た。（６０代女性）
・子どもを集めるには親世代から。（３０代女性）
・新しい自分と違う意見が聞くことが出来た・空き家を利用。（６０代女性）
・空き家を利用する事。（６０代男性）

※「２．気づきがなかった」の内容

・自分の意見が反映されていたから。（６０代男性）

⑤ 討議３「もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？」について、討議をおこない、新たな気づきがありましたか？次のなかから１つ選び○をつけ、その内容をご記入ください。

区　分	件数
1. 気づきがあった	24
2. 気づきがなかった	3
3. わからない	3
4. 無回答	2

※「１．気づきがあった」の内容

・ハウステンボス・ディズニーのようなヨーロピアンの建物づくりを。
・都市型集客施設が一つでも多く出来たらいいと思いました。
・施設だけが、子どもたちのためになるとは限らないこと。
・子どもとお年寄りの触れ合いは思った以上みんなが考えていると思いました。
・若い方の親や考えを聞くことが出来た。
・屋内型？屋外型？という所（スタート）違いから。
・いろいろな職業体験。
・皆で楽しめる（市民）。
・文化会館の利用など。

※「２．気づきがなかった」の内容

・自分の意見が反映されていたから。

⑥ 討議４「子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。」について、新たな気づきがありましたか？次のなかから１つ選び○をつけ、その内容をご記入ください。

区　分	件数
1. 気づきがあった	24
2. 気づきがなかった	4
3. わからない	2
4. 無回答	2

※「１．気づきがあった」の内容

・空き家をヨーロピアン風に改装を。 ・他グループの発表の中にいろいろな気づきがありました。 ・童心に戻ることが大切。 ・大人も楽しく、子どもも楽しく―子どもが楽しいから始まるより効率的・効果的。 ・いろんな年代や職業の方の意見が聞けて良かったです。 ・テーマを明らかにして街並みづくりをする。 ・農業体験、一緒に料理、移動カフェ。 ・ロープウェイ、高崎検定を使った観光など。

⑦ 討議５「高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～」について、討議をおこない、新たな気づきがありましたか？次のなかから１つ選び○をつけ、その内容をご記入ください。

区　分	件数
1. 気づきがあった	21
2. 気づきがなかった	3
3. わからない	3
4. 無回答	5

※「１．気づきがあった」の内容

・足湯、おっきりこみを作る。
・集客導線の作り方。宣伝に地元企業を巻き込む。
・子持ちの方の意見は、身近に感じることで、なるほど！と思いました。
・企業の活用、イオンバス、ヤマダ電機の掲示板での情報提示など。
・駅～河川敷＝中心街の活性化につながる。
・自分では思いつかない発想があった。
・水質の心配。
・移動カフェ。

⑧ 討議に入る前の情報提供は、討議するにあたり、参考になりましたか？次のなかから１つ選び○をつけてください。また、「３」とお答えになった方はその理由をお書きください。

討議２『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』

区　分	件数
1. とても参考になった	4
2. 参考になった	25
3. あまり参考にならなかった	1
4. 無回答	2

討議３『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』

区　分	件数
1. とても参考になった	8
2. 参考になった	22
3. あまり参考にならなかった	0
4. 無回答	2

討議４『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』

区　分	件数
1. とても参考になった	8
2. 参考になった	18
3. あまり参考にならなかった	4
4. 無回答	2

※「３．あまり参考にならなかった」の理由

・討議内容と違っていた。

・例の紹介タイミングが悪い。河川敷計画の話は討議５です。少々混乱を招く。

・討議テーマと情報提供が合ってなかった。

討議５『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』

区　分	件数
1. とても参考になった	9
2. 参考になった	21
3. あまり参考にならなかった	1
4. 無回答	1

※「３．あまり参考にならなかった」の理由

・他のマネをするのはよくない。

⑨ 今回の市民討議会の参加を終えて、まちづくりに積極的に参加したいと思いましたか？あてはまるものを１つ選び○をつけてください。

区　分	件数
1. 非常に思う	15
2. ややそう思う	12
3. どちらともいえない	3
4. あまりそう思わない	0
5. まったくそう思わない	0
6. 無回答	2

⑩ 今後、市民討議会でとりあげて欲しいテーマや課題等がありましたら、ご自由にお書きください。

・障害者・子どもたちとの関わり方。
・イオンモールの一部を第３セクター化で高崎市がお金を出す。
・高崎公園の活用（今はほとんど利用がない・アンデルセン公園のような）
・障害について。
・子どもの教育について。
・中・高校生向けの何か学校を超えて交流できるシステム作り。
・子育てについて。
・新高崎市（吉井・新町など）のものを取り入れてほしい。
・中心市街地と周辺農山村部のアイディアについて。
・市民の健康について。（高崎市は健康施策が弱いと思う）
・皆様の中に、すでにやっている高崎のイベント、知らないことが多かったので、広く知らせてほしい。
・いかなるテーマであっても、計画の具体案が固まりつつある。お題よりもまだまだ発展途上の題について話し合ってみたい。
・自然保全・条約・ルール制定など。
・新・旧高崎市内とのかかわり。
・旧町村・外周の活性。
・歩道のバリアフリー化に関心。
・災害時の地域全体をあげた対応策。
・公民館の活用。
・地球温暖化対策にむけての取り組み・話し合い。

●良かった点、改善すべき点、その他ご意見、ご感想など、ご自由にお書きください。

■良かった点

・いろんな人の意見や考えを聞けて有意義だった。
・１つのテーマを掘り下げて考えていくのは、思いがけないものが出て良いと思った。
・グループに分かれての話し合いが良かったと思います。
・年齢の違う人たちとの意見も聞けて良かった。
・色々な方と意見交換ができてとても刺激を受けました。また、皆きちんと高崎市に対する意見を持っているのは嬉しいことだと思います。
・ブレーンストーミングの原則、特に批判をしないというのはとても空気をなごやかにすると思います。
・活発に意見が述べられて良かった。
・グループメンバーが課題ごとに変わり、いろんな方と意見交換ができとてもよかった

です。
・高崎が市をあげて、このようなテーマに取り組んでいる事に感動しました。ここで話し合った議題が一つでも多く実現できるように願っております。
・毎回グループを変えるのは、いろいろな意見が聞けて良かった。
・色々な地域の人と交流出来て刺激になった。
・自由な雰囲気の中で話し合いが出来た。
・どの人も前向きに発言していてよかった。

■改善すべき点

・グループ移動はＡＭ・ＰＭ各一回でもいいと思った。
・もう少し２０代の若い世代が参加できるといいと思います。
・討議内容がダブりすぎ？もう少し討議を少なく時間を長くしたほうが良いのでは？と思いました。
・テーマが漠然として意見が分かれやすい・地域や場所、やるべきことをはっきりしたほうが討議しやすい。
・討議が重複していた。ずーっと同じような話し合いをしているようだった
・項目に共通点が多かったので、まとめて議論の時間を長くとってはどうかと思う。
・後ろで見ている人が各テーブルに一人ずつついて、内容を聞いているほうが好ましい
・前もって意見を考えてこられるように、より具体的で明確な進行次第が送られてきたらよかった。
・参加募集時に討議テーマ・情報提供を送付した方がいいと考える。
・参加者とスタッフの名札の色を変えてほしい（スタッフは名前も）
・ニックネーム呼びは目新しく良いけど、本名も入れてほしいと思いました。
・一つのテーマをもっと深く議論できたほうが良いかも。

■その他ご意見、ご感想

・知らない施設が多いのでＰＲしてほしい。
・特定の人選ではない人々の今日の討議を、多岐にわたり検討し、話だけでは終わらせないで、一つでもいいので近い将来実現させてほしいと思いました。
・古い建物が多いので順番に新しくしてほしい。
・群馬県は車社会となってしまい、市街地が空洞化してしまった。
・モノレールなら後付けでも工事できるので、高崎駅→旧競馬場→新体育館→音楽センター→高崎公園を結ぶ線を作れば高崎市の施設を子ども・高齢者も利用できる。車社会から脱することが子ども・高齢者が使える町になる。
・市役所前の城址公園内にバーベキューができる流し台があるが、予約して使えるようにできればいい。
・河川敷まで行けという議論のようだが、便利な場所でバーベキューができればを考える。
・河川敷までの交通手段がなければ使う人がいない

第４章　たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５の検証と評価

４－１検証と評価

（１）参加者について

住民基本台帳から、１８歳から６９歳までの市民１２００人を無作為に抽出し、参加依頼書を送ったところ、４１人の方から承諾を得ることができました。承諾者を参加依頼者数で割ると、承諾率は３．４％（４１人／１２００人）となりました（たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２００９…５．８％、同２０１０…３．４％、同２０１１…２．８％、同２０１２…３．３％、同２０１３…３．０％、同２０１４…３．９％）。

当日の参加者については、数人から欠席の連絡があり、３２人でした。

参加者の男女別や年代別、地域別の人数は以下の通りです。

（単位：人）

参加者数	32						
男女別	男性	女性					
	17	15					
年代別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
	0	0	7	7	4	14	0
地域別	高崎	倉渕	箕郷	群馬	新町	榛名	吉井
	26	0	0	1	0	0	5

男女別を見ると、今回の市民討議会参加者は男性１７人（５３．１%）、女性１５人（４６．９%）となり、男性の参加者が女性の参加者を若干上回りました。一般に公募による市民会議においては男性の参加者が多いことと比較すると、無作為抽出により参加依頼をしたことでサイレントマジョリティの参加につながる効果があったとみることができます。

参加承諾者の年代に関しては、６０代の参加者が４３．８%と突出しております。例年６０代の参加者は多くなる傾向があり（昨年度・・６３．９%）、１０代、２０代の参加者はいませんでした。これは例年の課題でもあり、今回の市民討議会において２０代・３０代の市民に参加していただく試みとして、「チラシのデザイン」・「テーマのタイトル」・「実施会場」・「実施日時」等の工夫をしましたが、若い世代の十分な参加には至りませんでした。やはり、各年代にバランス良く参加を働きかける方法は、今後も大きな課題です。若い年代や子育て世代の参加を促す方法としては、平日開催（大学や企業に理解を求める裁判員制度のような方法）や託児所の

設置などの検討も必要と考えます。

（２）参加理由について

当日アンケート結果から「高崎市のまちづくりや計画に自分の意見が反映されるかもしれないから」が２１件となっており、市民討議会における意見が市政に反映されることを期待する声が多くあがっております。また、「討議テーマに興味があったから」が１５件、テーマの表現方法の工夫が評価された結果となりました。さらに「参加対象者を無作為抽出で選んでいるから」が１２件となっており、市民討議会の手法を評価する声も多くあがっております。これらのことからすると、参加者は市民討議会という市民参加の手法を評価して参加しているといえます。

（３）討議内容について

＜討議１『あなたは高崎のまちで何をする？』＞

アンケート内容、対象エリアにあなたはどのくらいの頻度ででかけますか？で出席者の３１．２５%が「週３日以上」と回答しており、生活面での目的が多かったです。また、高崎のまちの利用目的に対し希望する意見もあり、今の高崎の現状把握が得られたと考えます。

＜討議２『あなたにとって「子どもが集まるまち」ってどんなまち？』＞

出席者の７１・８%が「気づきがあった」と回答しており、子供が集まるまちに向けたイメージの効果は得られたと考えます。子供・大人たちが一緒に遊べ、交流できる集客施設のイメージを共有し、また、まちの不安・課題などを確認する目的が果たせたと考えます。

＜討議３『もしも高崎のまちに子ども向け都市型集客施設があるとしたら、どんなものにしたいですか？』＞

出席者の７５%が「気づきがあった」と回答しており、子どもを意識した施設、子どもで賑わうイメージ効果は得られたと考えます。空家の利用・テーマパーク・子どもとお年寄りの触れ合いや、遊びながら学べる職業体験など未来のまちなかを想像し、子ども向け都市型集客施設に向けた具体的アイディアの創出につなげられたという点で、目的が果たせたと考えます。

＜討議４『子どもを連れて出かけたはずが、ついつい大人も楽しんじゃう。そんな高崎のまちの仕掛けを考えてみよう。』＞

出席者の７５%が「気づきがあった」と回答しており、大人が子どもを連れて行きたくなる仕掛けについて討議し、討議５の参考にする効果は得られたと考えます。新しく施設を造るのではなく、今ある場所・建物などを活かした具体的な「参加型」や「体験型」のアイディアが多数出て、多くの参加者の方に共有・共感を得る成果が上げられたと考えます。

＜討議５『高崎のまちから烏川河川敷エリアを楽しめる空間に！～笑顔をつくる、高崎リバーサイドストーリー～』＞

出席者の６５．６%が「気づきがあった」と回答しており、河川敷を利用して家族が楽しみ、賑わう具体的なアイディアを生み出す成果を上げられたと考えます。河川敷の利活用について参加者の方が強い関心を持っていただけたと考えます。

＜情報提供について＞

当日アンケート結果において、「とても参考になった」が４人、「参考になった」が２５人であり、全体の約９０%の参加者が討議するにあたり情報提供の内容が参考となったと回答しております。

＜ワークシートについて＞

市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１３・２０１４同様、ワークシートに張り付けられた付箋の内容や意見のまとめについて、抽象的な内容や、様々な観点からの意見がひとつの文章にまとめてあるなどして、分かりにくい内容が若干ありました。市民討議会の意見はワークシートに集約され、市に報告されることから、今回の市民討議会では、より分かりやすく忠実な報告書の作成を目的として、グループごとのまとめの発表をビデオ撮影し、報告書の精度を高めていきます。

＜小テーマの設定について＞

今回は「子ども」をキーワードとし、子どもや大人・家族が楽しめる高崎のまちから烏川河川敷を討議対象エリアに設定し討議を進めた結果、今後の高崎のまちの活性化を行う上で、具体的な情報が得られたといえます。

４－２中間報告会

（１）中間報告会の開催

１１月１５日（日）高崎市保健センター３階第４会議室にて中間報告会を開催いたしました。９月に使用した討議シートを整理し、まとめた中間報告書を配布し、その内容に関して内容確認を行いました。また市民討議会参加後の意識の変化についてグループ討議を行い、発表しました。

ただ、当日参加者は９名と市民討議会参加者の約３分の１にとどまる結果でした。市民討議会参加者の方が中間報告会にも参加して頂けるように努力が必要といえます。

また、中間報告会当日欠席した方には、後日、中間報告書を郵送し、内容を確認してもらいました。

（２）意見、要望など

①市民討議会に参加して自分自身が変わったこと

・家族に討議会の内容の話をした。
・市の広報を以前より関心を持って読むようになった。
・友達や家族に内容を話した。
・まちなかに出ると、「ここを、こうにしたら」と思うようになった。
・現実的な良い意見の実行に協力出来たらと思った。
・知人に意見を聞いてみた。
・討議を通していろいろな意見を知った。
・家族には話はしましたが、特に変わりはない。
・市の行事・施策を他人事と思わなくなった。
・『自分も選ばれるんだ』社会の一員である自覚が得られた。
・広域になった高崎市なので市街地集中ではない考え方が必要だと思うようになった
・市街地に対する見方（駐車場の場所や、河川敷の活用がこれでベストなのか？）
・他の参加者のご意見を聴き、夢が広がりました。自分が考えていた事は、現実性があるものでした。
・今まで以上に、高崎市（市街地）が市民の集まるところにしたいと思うようになりました。

②市民討議会への意見

・このような討議会があること、また結果などを広報たかさきで知らせる。
・若い人を是非入れてほしい。
・若い人を集めるには、時間を短くする。
・集客を議題にしているが、市民討議会の集まりがわるいような・・・。
・討議会の内容が重複している。
・報告書を目にする機会がない。
・高校生版討議会を検討。
・学校でこのような機会があることを教えてもらう。
・高崎市から出て戻りたいと考えている人の意見も必要。
・若い男女の比率がもう少し多い方が良いのでは。（エネルギーと行動力、未知への希望が出やすいと思う）
・参加者が６０代が多い事を知り残念に思いました。これから長く生活していく地を大切にして欲しいと思うので、若い世代の参加を募って下さい。
・若い世代（～４０代）と先輩世代（５０代～）がバランス良く参加できるとさらにいい。
・通知をいただいた時、１日は長いと思いましたが、興味があったので参加させていただきました。忙しくしている方は参加してみたくても無理だったのかと思います。
・開催時間が長すぎたと思います。午前中で終わるとか・・・
・討議数を少なくし、内容を濃く。
・一つ一つの討論がせわしなく終わった印象。もう少しゆとりが欲しかった
・高崎を知らない人目線の考え方も必要。
・「知らない」ということを前提にしないと。駐車場・告知・施設なんでも。丁寧・詳細な案内を。

おわりに

子どもたちを切り口に大人も家族も楽しめる未来の高崎のまちを創るのは私たち自身です。行政の施策に頼るのではなく、私たち自身が想いを描き、行動し、まちを創る、その主体的な市民になることが、未来の高崎を創る方法ではないでしょうか。

たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５では『家族と楽しむ高崎プロジェクト～きっかけは子どもから！笑顔あふれるまちづくり～』について進めました。子ども・大人・家族が楽しめる未来ビジョンを描くにあたり現在を把握しこれからの高崎のまちの未来を思い描きました。この思い描いた未来のまちに向けて自らが行動することが、新しい高崎を創りだします。

今回の討議結果は、必ずしも実現が約束されているわけではありませんが、自分たちが住むまち・高崎市を変えようとする市民を生むのではないかと思っております。是非、この機会だけで終わらせることなく、今後自分たちそして高崎の将来の為に率先して行動をし、新しい高崎の物語（ストーリー）を創りましょう。

たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会
事務局長　松本　武志

＜参考資料＞

たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会メンバー

実行委員長	串田　洋介	（高崎青年会議所）
副実行委員長	金井　裕	（高崎青年会議所）
事務局長	松本　武志	（高崎青年会議所）
事務局次長	大谷　史隆	（高崎青年会議所）
事務局次長	田胡　徹也	（高崎市役所）
事務局情報提供調整担当	清水　雅仁	（高崎市役所）
事務局運営	小倉　信孝	（高崎青年会議所）
事務局会計	大嶋　昭一	（高崎青年会議所）
事務局広報	村上　文治	（高崎青年会議所）
事務局書記	橋爪　真理子	（高崎青年会議所）
実行委員	島﨑　淳	（高崎青年会議所）
実行委員	有賀　稔幸	（高崎青年会議所）
実行委員	岡田　実紀	（高崎青年会議所）
監事	倉品　学	（高崎青年会議所）

以上　１４名

「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５ 」の実施に関する協定書

公益社団法人高崎青年会議所（以下「高崎ＪＣ」 という。）と高崎市（以下「市」という。）は、これまで市政に声を届ける機会の少なかった市民の方からも幅広いご意見をいただき、その成果を今後のまちづくりに活かしていくことを目的に、無作為に抽出された市民がまちの課題を討議する市民ワークショップ「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５」 （以下「市民討議会」という。） を協働して実施するにあたり、次のとおり協定を締結します。

１　協定の総則

本協定は、「市民討議会」の実施及びその手法の効果の検証・評価に関し、高崎ＪＣと市の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるものです。

２　協働に関する原則

高崎ＪＣと市は、協働の精神に基づいて、お互いに次の原則を遵守します。

（１）お互いが対等なパートナーの関係を保つよう心がけます。
（２）お互いの立場を理解・尊重し、自由に意見を交換できる関係を作ります。
（３）お互いの活動を理解し、その主体性・自主性を尊重します。
（４）個人情報は「市民討議会」の実施のためにのみ利用し、適切な保持管理を行います。
（５）中立性・公平性を保ち、双方の納得がいく形で「市民討議会」を実施します。
（６）双方の役割で得た情報は、迅速に共有できるように努めます。
（７）「市民討議会」の手法の効果について、ともに検証・評価します。
（８）過程や結果、手法の効果などを市民に広く情報公開します。

３　役割と責務

（１）高崎ＪＣの役割と責務

ア 実行委員会の設置及び運営に関すること

「市民討議会」を円滑に実施するため、「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会」（以下「実行委員会」という。） を設置し、運営にあたります。

イ 広報活動等に関すること

「市民討議会」 を広く周知するため、広報活動を行います。

ウ 個人情報の保護に関すること

「市民討議会」 を実施する上で知り得た個人情報は、高崎市個人情報保護条例と別紙「個人情報の保護に関する取扱仕様書」に基づいて、適切な管理を行います。

エ 案内状の発送に関すること

対象者への案内文の発送と参加者の取りまとめを行います。

オ 経費の負担に関すること

「市民討議会」 に係る経費のうち４００，０００円を負担します。

（2）市の役割と責務

ア 実行委員会への参加に関すること

実行委員会に委員及び事務局として職員が参加します。

イ 広報活動等に関すること

「市民討議会」 を広く周知するため、広報紙等を活用し、広報活動を行います。

ウ 対象市民のリストの抽出に関すること

住民基本台帳から無作為抽出を行い、抽出した市民への案内文書の送付及び参加者のとりまとめに協力します。

エ 情報提供に関すること

実行委員会に対し、「市民討議会」実施に必要な情報について事前協議を経て情報提供をします。

オ 場所の確保に関すること

市民討議会会場及び開催に必要な会議室等の場所の確保に協力します。

カ 関係団体との調整に関すること

テーマに関する関係市民団体などとの必要な調整に協力します。

キ 報告された内容の検討に関すること

報告書の内容を真摯に検討し、市政に活かすよう努めます。

ク 経費の負担に関すること

「市民討議会」に係る経費のうち３５０，０００円を負担します。

4　協定の有効期限

本協定の有効期限は、協定締結の日から平成２７年１２ 月３１ 日までとします。

5　その他

本協定に定めのない事項で、市民討議会を実施する上で必要と認められるものについては、高崎ＪＣと市が協議して定めるものとします。

上記協定の成立を証するため、 この協定書 2 通を作成し、 高崎ＪＣの代表者と高崎市長が署名捺印の上、各自その 1 通を保有するものとします。

平成２７年4月8日

公益社団法人　高崎青年会議所　理事長　串田洋介　㊞

高崎市長　富岡賢治　㊞

「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５」 実行委員会運営要綱

（設置）

第１条　「たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５」（以下「市民討議会」という。）を円滑に実施するため、たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１５実行委員会（以下「実行委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第２条　実行委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

（１）市民討議会の企画・運営に関すること

（２）市民討議会の報告書の取りまとめ、提出に関すること

（構成）

第３条　実行委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

（１）高崎青年会議所会員

（２）高崎市職員

（３）前２号に掲げる者のほか、実行委員会が特に必要と認める者

（委員の任期）

第４条　委員の任期は平成２７年１２月３１日までとする。

（委員長）

第５条　実行委員会に委員長を置く。

（１）委員長は、委員の互選によって選任するものとする。

（２）委員長は、実行委員会を総理する。

（３）委員長が不在の時は、その任務を代理する者を委員の互選によって選任するものとする。

（会議）

第６条　実行委員会の会議は、実行委員及び事務局員による全体会議とする。

（１）全体会議は、委員長が招集し、議長となる。委員長が不在の場合は、委員長に指名されたものを議長とする。

（２）全体会議は、第２条に規定する事務のうち、次に掲げる事項について所掌する。

１．市民討議会の名称の決定

２．実行委員会運営要綱の決定

３．プログラムの決定

４．市民討議会のＰＲ

５．無作為抽出による参加者の決定

6．情報提供者の決定
7．案内状の発送
8．市民討議会開催当日の運営
9．報告書の決定、提出

（3）全体会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（事務局）

第７条　実行委員会に事務局を設置し、所在は高崎市高松町３５番地１高崎市役所総務部企画調整課内とする。

（1）事務局に事務局長を置く。

（2）事務局は、第２条に規定する事務のうち、次に掲げる事項について所掌する。

1．会計、庶務
2．実行委員会のメーリングリストの構築、管理
3．各種印刷資料の作成、印刷、配布
4．広報及び参加者、傍聴者への対応

（個人情報保護）

第８条　実行委員会は、市民討議会を実施する上で、知り得た情報のうち、プライバシーに関するものなどについては、高崎市個人情報保護条例及び別に定める「個人情報の保護に関する取扱仕様書」 に基づいて個人情報の保護を行う。

(補則)

第９条　この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附則

この要綱は、平成２７年４月８日から施行する。

VOICE 2015

たかさき市民討議会

家族と楽しむ高崎プロジェクト

～ きっかけは子どもから！ 笑顔あふれるまちづくり ～

日程 9月13日(日)
9:00~17:00

会場 cafe あすなろ
（高崎市鞘町73）

VOICE 2015

討議テーマ 家族と楽しむ高崎プロジェクト
～ きっかけは子どもから！ 笑顔あふれるまちづくり ～

開催日時 9月13日(日) 9:00~17:00 （開場 8:30）

会　　場 cafe あすなろ（高崎市鞘町73）

駐 車 場 高崎市役所 地下駐車場(無料にてご利用いただけます)
＊会場まで徒歩5分程度

目　　的 市民の声をまちづくりに

手順とスケジュール

参加の方

8月 7日(金)必着	参加承諾書を記入の上、返信用封筒を利用し投函(切手不要)
8月末頃	参加依頼書と資料をお送りいたします
9月13日(日)	当日会場にお越しください

※FAXでのご返信でもOKです(FAX 027-321-1190)
※参加で報酬金4,000円をお支払いいたします。
※13日の昼食はこちらでご用意します。

参加希望者多数の場合、抽選とさせていただきます

不参加の方 不参加の場合は、返信の必要はありません。

**参加のお願いが届きましたら、ぜひご参加ください。
あなたの意見が高崎市を一歩前に進めます**

What's たかさき市民討議会VOICE 2015

- **参加討議者の無作為抽出**
  無作為抽出により選出された1200人の市民に案内状を送り、返信をされた方の中から抽選で50名を参加者として決定します。
- **参加討議者の有償制**
  参加者には報酬として手当を支給します。
- **専門家による情報提供**
  討議（話合い）の前に複数の専門家などから情報を提供します。
- **参加討議者が討議・意見集約**
  参加者のグループ討議により意見を抽出・集約し、合意形成します。
- **討議結果（報告書）の提出・公表**
  討議結果は報告書にまとめ、行政に提出・ホームページなどを通して公表します。

Q&A

Q 専門知識がないので不安です。
A 討議（話合い）の前に、専門家などによりテーマに沿った情報を提供しますので専門知識がなくても問題ありません。専門家でない、一般市民の意見を求めるのが市民討議会です。

Q 自由に意見が言えないのでは？
A 市民討議会では、少人数（5～6人）のグループに分かれてテーマに沿って討議していただきます。少人数で討議することにより発言の機会が増します。

Q なぜ参加報酬がもらえるのですか？
A 市民討議会に参加していただいた方には、参加報酬をお支払いします。報酬を支払うことによって、「仕事」として責任ある発言をしていただきます。

Q 自分の意見がどのように反映されますか？
A あなたのご意見は、市民同士で話合いを行うことで市民討議会の意見として集約されます。同会の意見は、報告書として高崎市に届けられ、市が具体的な政策立案を行う上の参考とします。

たかさき市民討議会

たかさき市民討議会は公益社団法人高崎青年会議所と高崎市が協働で開催しています

主催 たかさき市民討議会VOICE2015実行委員会
公益社団法人高崎青年会議所／高崎市

問合せ先 たかさき市民討議会VOICE2015実行委員会事務局
〒370-8501 高崎市高松町35番地1 高崎市役所 総務部企画調整課内
TEL 027-321-1206　FAX 027-321-1190

◆ 過去開催について

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２００９（第一回）
開催日：平成２１年１０月３日（土）、４日（日）
会　場：高崎市役所２０階　研修室・会議室
テーマ：『語ろう高崎　～魅力ある都市を目指して～』
参加者：２７名

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１０（第二回）
開催日：平成２２年８月２８日（土）、２９日（日）
会　場：高崎市役所２０階　研修室・会議室
テーマ：『図書館の底力　～知れば知るほど面白い知識の宝庫～』
参加者：２５名

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１１（第三回）
開催日：平成２３年９月３日（土）、４日（日）
会　場：群馬音楽センター　第一会議室
テーマ：『描き出そう！私たちのまち高崎～想像×創造＝未来像』
参加者：４１名

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１２（第四回）
開催日：平成２４年９月８日（土）、９日（日）
会　場：高崎市役所２０階　研修室
テーマ：『中心市街地活性化を考える　～まちなかづくりはみんなが主役～
参加者：３２名

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１３（第五回）
開催日：平成２５年９月７日（土）、８日（日）
会　場：高崎市総合保健センター２階　第一会議室
テーマ：『考えよう！暮らし続けたい街～つながりから始まるまちづくり～』
参加者：３４名

○ たかさき市民討議会ＶＯＩＣＥ２０１４（第六回）
開催日：平成２６年９月２０日（土）、２３日（火）
会　場：Café　あすなろ
テーマ：『未来の中心市街地を自由に描く～まちなかを遊び場に～』
参加者：３５名